

ら食物経路で摂取される曝露量は少ないと推定されることから、その曝露量を加えても MOE が大きく変化することはないと考えられる。したがって、総合的な判定としても、現時点では作業は必要ないと考えられる。

吸入曝露については、無毒性量等が設定できず、曝露濃度も把握されていないため、健康リスクの判定はできなかった。しかし、本物質の蒸気圧は相対的に低く、媒体別分配割合の予測結果では大気への分配はほとんどなく、水溶解度は高いにもかかわらず公共用水域・淡水、海水で不検出であったことから、一般環境大気に起因した本物質の曝露は小さいと考えられた。したがって、総合的な判定としては、本物質の一般環境大気からの吸入曝露については、健康リスクの評価に向けて吸入曝露の情報収集等を行う必要性は低いと考えられる。

曝露経路	有害性の知見			曝露評価		MOE		総合的な判定
	リスク評価の指標	動物	影響評価指標 (エンドポイント)	曝露の媒体	予測最大曝露量 又は濃度			
経口	無毒性量等 0.0039 mg/kg/day	ラット	心臓重量の増加、精巣重量の減少と精子形成不全	飲料水	— µg/kg/day	MOE	—	○
				公共用水域・淡水	< 0.000030 µg/kg/day	MOE	> 13,000	
吸入	無毒性量等 — mg/m ³	—	—	一般環境大気	— µg/m ³	MOE	—	○
				室内空気	— µg/m ³	MOE	—	×

4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値（モノフルオロ酢酸当たり）は、藻類等では緑藻類 *Raphidocelis subcapitata* の生長阻害における72時間 EC₅₀ 4.2 µg/L、甲殻類等ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における48時間 EC₅₀ 17,000 µg/L、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の96時間 LC₅₀ 83,000 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度（PNEC）0.042 µg/L が得られた。

慢性毒性値（モノフルオロ酢酸当たり）は、藻類等では緑藻類 *R. subcapitata* の生長阻害における72時間 NOEC 0.244 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 0.0024 µg/L が得られた。

本物質の PNEC は、藻類等の慢性毒性値から得られた 0.0024 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域、海水域ともに 0.3 未満であり、生態リスクの判定はできなかった。

本物質の総合判定としては情報収集に努める必要があると考えられる。本物質や環境中で本物質に変化する物質の製造輸入量等の把握に努め、環境中濃度に関する情報や、甲殻類及び魚類の慢性毒性に関する情報の充実について検討することが望ましいと考えられる。

有害性評価（PNEC の根拠）			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	曝露評価		PEC/ PNEC 比	総合的な判定
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
藻類等 緑藻類	慢性	NOEC 生長阻害	100	0.0024	淡水	<0.00076	<0.3	▲
					海水	<0.00076	<0.3	

5. 結論

	結論		判定
健康リスク	経口曝露	現時点では更なる作業の必要性は低い	○
	吸入曝露	現時点では更なる作業の必要性は低い	○
生態リスク	更なる関連情報の収集に努める必要がある		▲

[リスクの判定] ○：現時点では更なる作業の必要性は低い、▲：更なる関連情報の収集に努める必要がある、
■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない。